

第6回 一般廃棄物最終処分場の候補地選定に係る住民説明会概要

1 日時 令和8年3月29日（日）16:00～17:05

2 場所 愛島公民館 会議室1・2

3 参加者

(1) 市民29名

(2) 名取市

山田市長、小松生活経済部長、朽木環境共創課長、石川環境共創課長補佐、
小山主事、石川主事

株式会社エイト日本技術開発 3名

4 説明事項

- (1) これまでの選定経過について
- (2) 詳細調査の結果について
- (3) 候補予定区域の絞り込みについて
- (4) 第5回住民説明会の補足説明

<質疑応答（要約）>

（1）最終処分場の概要、選定過程などに関する質疑

Q1 候補地 No1 について、既存の下水道管の耐用年数が25～40年とすると、既に敷設から25年を超えており、運用期間中に耐用年数は超えてしまうが、その対応策は考えているのか。

A1 1カ所に選定した段階で、施設のハード面や地域に対する還元策などを説明できると考えている。現時点で具体的な説明はできないが、必要な対策を講じた上で進めていく。

Q2 有害なものをクローズド型で閉じ込めるのではないかと感じる。クローズド型をアピールしている理由はあるのか。

A2 有害なものを内部に閉じ込めるという考えではなく、クローズド型とすることで、景観への影響を抑え、臭気や粉じんを外部に漏らさないようにすること、さらに雨水が焼却灰に触れない構造とすることで、環境への負荷を低減できると考えている。

Q 3 近隣の活断層が動いた場合、どれくらいの被害が想定されるのか。

A 3 5カ所まで絞り込む段階で活断層の危険区域等については候補地から除外をしている。また、今後建設するにあたっては耐震性能が重要であり、大規模な地震が発生した場合でも安全性に問題が生じることのない施設整備を進めていく。

Q 4 リスク分散の考え方から、2市2町の間で名取市が最終処分場を引き受けることになったのにも関わらず、なぜ名取市内の選定ではリスク分散の考え方を通さないのか。

A 4 過去の選定において、埋め立て容量が7万 m^3 から10万 m^3 に増えた際に、名取市では7万 m^3 以上の施設整備が難しいことから、選定は困難である旨を伝えた経緯がある。しかし、他の1市2町からは、組合の基本方針として処分場は名取市域を候補地とするとなっており、名取市が選定をするべきとの意見が示され、その調整に相当な時間を要した。

最終的には管理者会議において、名取市の次は山元町で選定するという整理がなされ、名取市が引き受けることで決まったが、2市2町のリスクを輪番で分散する仕組みが確立されているわけではない。こうした経緯を踏まえると、市内でもリスク分散を図るべきという考え方は違うという認識である。

Q 5 10カ所から5カ所、5カ所から3カ所に絞り込んだのか、理由が曖昧である。また、なぜ平地ではなく山の上に処分場を造るのか。既に候補地が決まっている上で、説明会を開催しているように感じる。

A 5 これまでの選定において、専門家の方々のご意見を踏まえて適地を選定し、その都度説明会を開催し、できる限りの説明を尽くしながら進めてきたということをご理解いただきたい。

Q 6 クローズド型で丈夫に作れば、安全という保証はあるのか。

A 6 どんな施設を整備しても、どのような事業を行っても、リスクを完全にゼロにすることはできないと考えている。そのため、可能な限りリスクを低減する観点から、無放流やクローズド型などを取り入れ、その内容についても丁寧に説明を重ねてきたところである。

今後も引き続き丁寧な説明に努め、地域の皆様のご理解をいただけるよう進めていきたい。

(2) 市と愛島の市民団体との当時の約束に関する質疑、ご意見

Q 1 愛島の中で誘致要望を出している団体があるため、愛島を候補地から外さないという考えのようだが、過去の約束を反故にしてまで一部の愛島に誘致を要望する人の意見を大切にするのか。

A 1 ごみ処理に関して、地域との約束を大切にしないと行ったことではなく、愛島が40数年間にわたり受け入れていただいた経過の重みと感謝の気持ちを持って、これまで選定を進めてきた。

当時は愛島の総意として市としても書面を取り交わしたが、現在は、誘致の要望が寄せられている地域もことから、今後の選定にあたってはこれまで以上に丁寧な説明を行っていく。

Q 2 今回の選定は、愛島を第1候補地にしないという過去の約束についての説明が全くない状態で始まっているため、候補地選定委員会で専門家から意見をもらっていると説明をされても空虚にしか聞こえない。過去の約束に対して重く受け止めているという言葉が市長からあったが、どう考えているのか。

A 2 市域全体をフラットにして10カ所から5カ所へ、5カ所から3カ所へと段階を踏んで、専門家の方にもご意見をいただいた中で徐々に絞込みをしてきた。段階ごとにその都度説明会を開催し、地域の皆様へ説明を行ってきたことに尽きると考えている。

(3) ご意見として承ったもの

意見 1 地区老人クラブの総会にて、基本的には愛島に処分場は整備してほしいが、何らかの還元があればやむを得ないのではないかという声もあった。

回答 1 還元策については、1カ所に選定した段階で、地域の方とお話しをさせていただきたいと考えている。

意見 2 塩手地区で那須塩原市のクローズド型最終処分場の見学を行った。頻りに車が入ってくることもなく（滞在した2時間のうち4tクラスのトラックが1台）、クローズド型で下水道放流の施設であれば全く問題ないという印象を受けた。

3年前に、処分場を建設して地域の役に立ち、併せて地元還元策を受けられるのであれば大方賛成という結果を書面で市に提出した経緯がある。これについては、現在においても地域住民の意向として変わっていない。

意見3 那須塩原市や気仙沼市の最終処分場を見学して、近代的な施設で環境面の負荷も少ないと感じている。塩手地区としては共有林の活用課題もあり、処分場の誘致を提案した。愛島の皆様には様々な思いがあると思うが、そのような点も踏まえながら、市は前に進めていただきたい。

回答3 1カ所に選定しなければならないという責任を負いながら、地域の皆様の思いも汲みながら、これからも説明を尽くしていき、引き続きご理解いただけるよう努めてまいりたい。